

書評

米本恭三 監修 石神重信・他 編集

最新リハビリテーション医学

村上 恵一（東海大学名誉教授、多摩丘陵病院理事長、院長）

本書を繙くと、わが国のリハビリテーション医学にたずさわる現役の代表の多くを網羅する華麗な執筆陣にまず目をうばわれる。

監修は日本リハビリテーション医学会の前理事長、現在東京都立保健科学大学学長の要職にある米本恭三先生であり、編者に石神重信、石田暉、眞野行生、宮野佐年と、各大学からリハビリテーション医学会の重鎮がつらなる。

きわめて広範多岐にわたる分野を対象とする本書であるが、豊富な著者群により当然のこととして担当それぞれ適切な執筆者を配し、「最新リハビリテーション医学」の名にふさわしい内容である。

第1章：リハビリテーション医学・医療の概要に始まり、第2章：リハ診療の手順と繁用される診断法、第3章：障害の病態生理と治療、第4章：疾患とリハビリテーションの構成となっている。

各章それぞれ細項目をもち、加えて11種の実用性に富む付表がある。

内容は膨大であり、書評の限られた紙数ではその詳細に言及し得ないが、基礎から臨床にわたる医学の立場で、その実践および教育をとともに念頭においた組み立てである。

このなかで、リハビリテーションにかかわる書中に一般的な諸事項のカバーはもとよりであり、さらに記述の範囲は広げられている。

第1章、リハ概要では保健、福祉などの一方で、現在ますますその意義が加わっている急性期リハビ

リテーションにも触れている。第2章の診療手順、診断法に続く基礎的立場を含めた第3章では、廃用による障害、運動・歩行、循環、呼吸、摂食・嚥下、排尿、褥瘡、痙縮・固縮、失行・失認、言語、痴呆、加齢、発達、性機能、心理などの問題につき記されている。

各論的第4章では、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、中枢神経変性疾患、慢性関節リウマチ、末梢神経・筋疾患、血行障害と切断、義肢、呼吸器、循環器、内部障害、骨・関節、骨折、骨粗鬆症、頸肩腕痛・腰痛・膝痛、スポーツ外傷・障害、慢性疼痛、熱傷、脳性麻痺・二分脊椎、精神疾患、平衡障害・聴覚障害、悪性腫瘍、さらには最近身体障害者等級付与対象とされたHIV感染症の項などがある。

診療現場の医師のみならず、看護婦、理学療法士、作業療法士、義肢装具士、言語聴覚士などの実務および教育的場面に対しても、加えて資格取得対応も十分意識された編集である。

本書の内容は介護保険の実施を目前にするわが国の現状におけるリハビリテーションの重要かつ大きな役割りを改めて如実に示すところでもあろう。

臨床、教育など、どの立場にもきわめて適切で、豊富な、しかも精緻な記述をもつ本書は時宜を得た好著であり、江湖の絶賛を確信し、リハビリテーションに関与し、あるいは関心のある方々に必携の座右の書として広く推薦したい。

(B5 頁426 5,900円＋税 1999 医歯薬出版刊)